

胃扁平上皮癌の1例

佐藤 馨、平 幸雄、高橋 光浩
 大江 洋文、井口 淳子、高屋 潔
 谷村 清明、酒井 信光、的場 直夫

はじめに

胃に原発する扁平上皮癌は、きわめて稀である。われわれは、本症の一例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者: 52歳 男性 農夫。

主訴: 上腹部不快感。

家族歴, 既往歴: 特記すべきことなし。

現病歴: 昭和59年6月頃より上腹部不快感あり、近医受診、胃X線検査にて、胃体上部に陰影

欠損指摘され、精査目的で入院した。

入院時所見: 体格小柄で、眼瞼結膜に貧血なく、理学所見上異常なく、腹部も平坦で、腫瘤を触知しない。

(**入院時一般検査:** 表1の如く、低色素性貧血、軽度の高血糖示したが、その他に特記すべきことはなかった。

消化管造影では、食道に異常なく、胃では噴門より胃体上部大弯側にかけて、辺縁不整隆起性病変を思わせる陰影欠損像を認めた(写真1)。

内視鏡検査では、透視と同一部位に、浅い潰瘍を伴った隆起性病変が認められた(写真2)。同時に行った生検では、角化型扁平上皮癌であった。その他、CT、超音波検査等では、肝転移等を思わせる異常所見は見られなかった。

表 1. 入院時検査所見

| | | |
|---------------|-------------------|------|
| WBC | ($\times 10^3$) | 8.6 |
| RBC | ($\times 10^4$) | 409 |
| Hb | (g/dl) | 7.3 |
| Ht | (%) | 23.6 |
| Plt | ($\times 10^4$) | 34.3 |
| T.Protein | (g/dl) | 6.6 |
| A/G | | 1.20 |
| T.Bilirubin | (mg/dl) | 0.23 |
| Cholesterol | (mg/dl) | 156 |
| BUN | (mg/dl) | 16.1 |
| Creatinine | (mg/dl) | 0.93 |
| Glucose | (mg/dl) | 149 |
| Al. ph | (K.AU) | 5.9 |
| Ch-E | (IU) | 4.43 |
| LDH | (IU) | 243 |
| GPT | (IU) | 17 |
| GOT | (IU) | 15 |
| γ -GTP | (mU/nl) | 11 |

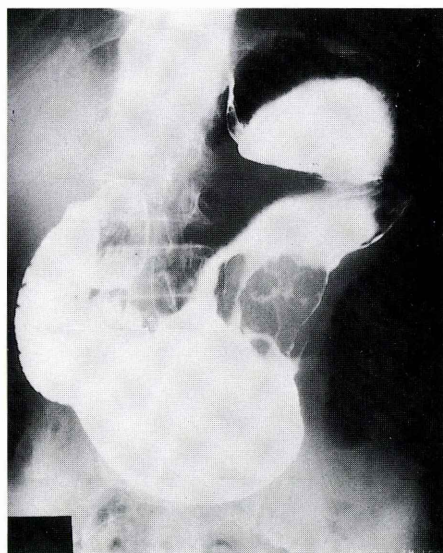


写真 1. 胃透視所見
 胃透体上部大湾よりに巨大な不規則形欠損がみられる。

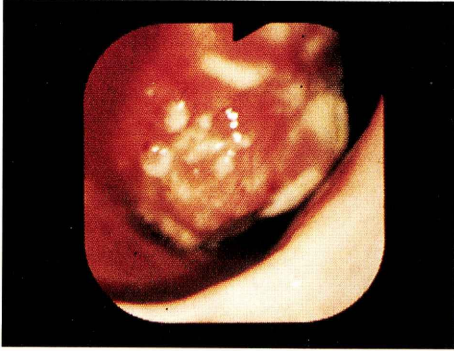


写真2. 胃内視鏡所見
胃体上部大湾側に浅い潰瘍伴った隆起性病変が認められる。

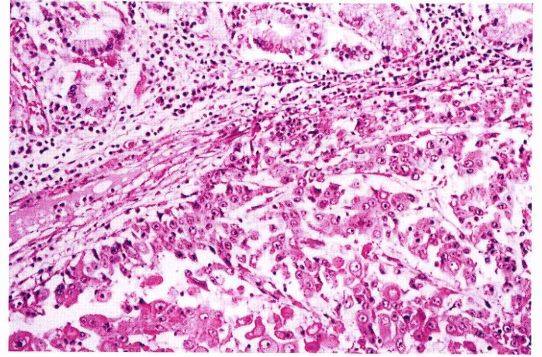


写真4. 病理組織所見
扁平上皮癌がみられ、腺腫や腺癌はみられない

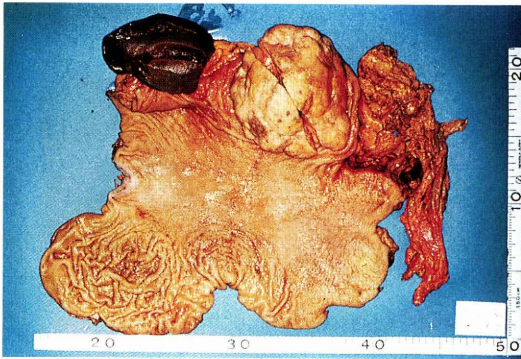


写真3. 摘出標本所見
胃体上部から中部の大湾則後壁に4.5×5.0 cmのBorrmann I型腫瘍

手術：手術は同年9月19日施行。開腹すると、胃腫瘍は胃体部大弯側後壁にあり、漿膜に著変なく、所属リンパ節の軽度の腫脹が見られたが、明らかな転移を思わせる所見はなく、また、肝、腹膜にも肉眼的転移はなかった。

手術として、胃全摘、脾合併切除、R₂郭清を行ない、再建は、Roux-Y法で、食道空腸ρ型吻合を行なった。

摘出標本所見：潰瘍は、胃体上部から中部の大弯側後壁にあり、大きさは4.5×5.0 cm Borrmann I型、限局性腫瘍であった(写真3)。一方、食道粘膜と腫瘍の間には、明らかに正常胃粘膜が存在していた。

病理組織学的所見：切除胃を細かく分割し調べたところ、扁平上皮癌、Infβ, pm, n₀, v₀, ly₀, aw

(-), ow(-), stage Iと診断された(写真4)。

術後経過：術後経過は順調であったが、ブレオマイシン、マイトマイシン等の多剤併用による術後化学療法を行なったところ、白血球減少、食欲不振、全身倦怠等の副作用が強く、中止せざるを得なかった。退院後、外来通院にて経過観察、満3年経過した現在再発の徴候なく、元気に日常生活を営んでいる。

考 案

胃原発の扁平上皮癌は、極めてまれであり、1895年 Röring, Epingen が各々最初の1例の報告以後、Straus¹⁾が1968年まで、44例の収録し、全胃癌の0.04%としている。本邦報告でも1974年、佐野の集計²⁾では、1863例の胃癌例中、わずか5例(0.33%)また1982年の胃癌研究会のアンケート調査³⁾でも、全胃癌切除例90639例中85例(0.09%)であった。その後、中泉等⁴⁾は4例の追加報告をしている。これ等の症例を検討すると、年齢的には、30歳台~72歳まで広く分布し、男女比では、2.6対1で男性に多い。潰瘍占拠部位では、約半数は、胃前庭部領域に発生し、肉眼的にはBorrmann II型の進行癌が多いようである。予後については、Alschler⁵⁾の古い報告では、胃腺癌と扁平上皮癌の5生率の比較で、扁平上皮癌が少し良いとの報告もあるが、本邦報告例では、多くの例が、発育、転移が速く、5年生存は1例のみで、必ずしも予後はよくないようである。中泉⁴⁾の集計

でみると、食道と関係のない pure squamous cell carcinoma 10 例中、大木の 1 例のみが Borrmann I 型癌であり、我々の 1 例を加えた、計 2 例が Borrmann I 型であった。他の 9 例は潰瘍型であり、部位も殆んどが胃体下部から幽門にかけての進行癌である。従って、それ等の予後をみると、11 例中 6 例は死亡しており、5 年以上生存は 1 例のみであった。我々の症例は限局隆起型で、病理学的診断より、stage I と診断されており、今後の経過を見守りたいと考えている、さて胃原発扁平上皮癌の組織発生については、議論の多いところであるが、Rinoux⁶⁾ は、扁平上皮癌の由来の可能性として 6 項目をあげ、そのうち ① heterotopic squamous cell epithelium ② squamous metaplasia ③ toti potential cell のいずれかの可能性が高いが、結論は出せないとしている。また chemical injury も考えられる報告もある^{7,8)}。臨床的に実際の、佐野²⁾の説によれば、① 食道粘膜よりの発生 ② 迷入または化生扁平上皮由来 ③ 未分化な胃腺上皮または腺癌の扁平上皮化生などの 3 項にまとめている。これまで報告されてきた、腺扁平上皮癌および、扁平上皮癌の症例は、ほとんど進行癌であり、その組織発生を論ずるには、推定の域を出ていない。我々の症例は限局した病変であり、精査した範囲の組織切片に、腺癌を思わせる所見がまったく含まれていないことより、迷入、または化生扁平上皮由来のものなどが考えられる。しかし、組織発生の解決には、佐野等²⁾の言う如く、pure squamous carcinoma のより小さいもの、より早期のものを発見し、検討する必要があると思われる。以上、我々の経験した極めて稀な Borrmann I 型を呈した胃扁平上皮癌の 1 例

を報告し、併せて若干の文献的考察を行なった。

結 語

1) 52 歳男性、胃噴門部から体部上部後壁に発生した Borrmann I 型の扁平上皮癌の症例を経験し、現在まで再発の徴なく元気に社会生活を送っているので報告した。

2) 胃扁平上皮癌は極めて稀であり、現在まで本邦例では我々の症例を含めて 90 例を数えるに過ぎない。

3) 胃扁平上皮癌の病理組織学検討とその組織発生について若干の考察を行なった。

文 献

- 1) Straus, R. et al.: Primary adenosquamous carcinoma of the stomach; a case report and review. *Cancer*, **24**, 985, 1969.
- 2) 佐野重造: 胃疾患の臨床病理, p. 77, 医学書院, 東京, 1974.
- 3) 胃癌研究会: 全国胃癌登録調査報告, 1982.
- 4) 中泉治雄ら: 胃原発の扁平上皮癌の 1 例. *胃と腸*, **18**, 237, 1983.
- 5) Alschler, J.H. et al.: Squamous cell carcinoma of the stomach. Review of the literature and report of a case. *Cancer*, **19**, 831, 1966.
- 6) Rinoux, A. et al.: Pure squamous cell carcinoma of the stomach. *Can. J Surg.* **22**, 238, 1979.
- 7) Won, O.H. et al.: Squamous cell carcinoma of the stomach. *Am. J. Gastroenterol.* **69**, 594, 1978.
- 8) Mc. Loughlin G.A. et al.: Cyclophosphamid and pure squamous cell carcinoma of the stomach. *Br. med. J.* **23**, 524, 1980.

(昭和 62 年 12 月 2 日 受理)